記者発表資料（６）

福　島　市

平成３０年１２月２７日

「土湯温泉町地区まちづくり協議会」が「第３回先進的まちづくりシティコンペ」国土交通大臣賞受賞

土湯温泉町地区では、地元の地域まちづくり会社が地域資源の「温泉」と「水力」を活用して新たな産業・雇用を創出し、また、都市再生整備計画に基づき「こけし育む　健康・湯の里　土湯温泉」をめざし、地域が一体となり復興再生のまちづくりを行ってきました。

これらの復興再生のまちづくりについて、国土交通省主催による「第３回先進的まちづくりシティコンペ」に応募したところ、国土交通大臣賞を受賞しましたので報告いたします。

記

１　件　　名　：　「こけし育む　健康・湯の里　土湯温泉」をめざした復興再生のまちづくり

２　応 募 者　：　土湯温泉町地区まちづくり協議会　会長　加藤勝一

３　内　　容　：・廃業した施設を「決して放置しない」ことを基本に事業計画を立案
・国土交通省の「都市再生整備計画事業」を活用
・公衆浴場・公共車場・観光交流センター・まちおこしセンター等を整備
・地元の地域まちづくり会社が地域資源の「温泉」と「水力」を活用した再生可能エネルギーによる発電事業や温泉熱を活用したオニテナガエビの養殖を手掛け、地域に新たな産業・雇用を創出。観光資源としても全国的に注目を集めている。
（概要版エントリーシート参照）

４　日　　程　：　国土交通省による発表　１２月２６日（水）
表彰式　　２月下旬

５　そ の 他　：　先進的まちづくりシティコンペとは
国土交通省では、最先端技術や新しい手法を活用した先進的なまちづくりの取り組みについて表彰し、国内外だけでなく海外にも広く情報発進することを目的として、コンペを実施している。

担当：都市計画課　まちづくり推進係
課長　森　、係長　齋藤
電話 024-573-4979（直通）

第３回先進的まちづくりシティコンペ　概要版エントリーシート

「こけし育む　健康・湯の里　土湯温泉」めざした復興再生の街づくり

■実施主体：土湯温泉町地区まちづくり協議会
■場所：福島県福島市土湯温泉町
■背景・経過：

当地区は県都福島市内から西南に約１６Km、標高４５０mに位置する温泉観光地です。ここ２５年間においての県内外からの観光入込客数はピーク時で約３７万人でした。磐梯朝日国立公園の一画にあり、また、伝統工芸品であるこけしの里としても知られています。平成２３年３月の東日本大震災と直後の東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質による風評を含む被害をきっかけに、１６宿泊施設の内、５施設が廃業してしまいました。さらに、少子高齢化と人口減少に拍車がかかり高齢化率は５２％と高い水準となってしまいました。この疲弊してしまった姿を前に、「このままにしておいてはいけない」との機運が高まり、再び賑わいを取り戻しサスティナブルな温泉観光地づくりを目指す取り組みを行っています。

■取組内容：

平成２６年６月、復興再生を推進する組織として福島市と連携した土湯温泉町地区まちづくり協議会を設立しました。基本方針は「こけし育む　健康・湯の里　土湯温泉」とし、廃業した施設を「決して放置しない」ことを基本に事業計画を立てました。国土交通省の社会資本整備総合交付金「都市再生整備計画事業」を活用し、計画区域面積約２１ha を設定し、公衆浴場・公共駐車場・観光交流センター・まちおこしセンター等を整備してきました。

平成２４年には地元２団体が資本出資し地域まちづくり会社を立ち上げ、地域資源である「温泉」と「水力」を活用した先駆的な再生可能エネルギーによる発電事業に取り組んでいます。さらには、温泉熱を活用したオニテナガエビの完全陸上養殖を手掛け、地域に新たな産業、雇用の創出に繋がり、観光資源としても全国的に注目を集めています。これら一連の取組では、年間２千名を超える方々に視察・ツアーに訪れていただくなど、温泉利用来訪者実績においても２１万人を数えるまでに復興しました。

都市再生整備計画で景観整備された温泉街

これからの街づくりの柱としてスタートしたバイナリー発電設備。温泉供給と同時に毎時400Kw の発電がなされている。

空き旅館跡地をイノベーションして作られた公衆浴場。街のランドマーク。

発電後の温まった冷却水と温泉熱を利用して養殖されたエビでエビ釣りイベントを楽しむ観光客の皆さん。新しい産業と雇用の創出に貢献している。